

森山小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①聴き合い、伝え合う力を伸ばす支援の在り方
- ②学校と家庭との連携による家庭学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 寺澤美智代	委員 校長：三橋孝史 教頭：藤井誠治	低学年 羽田 涼 阿部 智代	中学年 阿部 利幸	高学年 阿部 利幸 河野 啓介
------------------	--------------------------	----------------------	--------------	-----------------------

校長
三橋 孝史

【小中連携または中高連携における共通の取組】

主体的、対話的に学び合う中で、粘り強く継続的に取り組む態度の育成

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

管理職による授業参観や授業研究会、教員からの報告等により取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○スモールステップのミニテストにより意欲の持続が図られ基礎的な力の習得については一定の成果が見られる。 ●基礎的・基本的内容が多くなるにしたがって、個人差が大きくなり定着が難しくなる傾向が見られる。	・基礎学習に集中して取り組み、言語や計算の基礎的、基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。	・学習規律の共通理解を図り全校体制で継続的に指導し、学習に向かう集団の確かな土台づくりを図る。 ・スモールステップのぐんぐんテストやタブレットを活用したドリル学習を教員二人体制で行い、個別学習の充実を図る。	・漢字学習では、熟語や反意語、同音異義語集め、短文作りなどを通して、多目的活用力を培う。 ・ぐんぐんテストでは、当該単元のみならず、既習内容も適宜取り入れ、知識の掘り起こしを図る。	・立腰タイムや授業の準備これだけはを日々呼びかけることで、姿勢保持や学習に向かう風土は醸成しつつある。 ・ぐんぐんテストでは、達成状況が可視化できるため、意欲的に集中して取り組み、達成率は全学年80%以上であり、短期的な習熟度は高い。	・既習漢字の多様な読みや使い方、日記の中での活用には、課題がある。熟語、同音異義語短文作りを加えたぐんぐんテストの活用を図る。 ・算数では、既習内容のぐんぐん振り返りテストやタブレットの活用等により、確かな基礎基本の定着を図る。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○スピーチ力が高まり、他者の考えにつなげて、自分の考えを話そうとする児童が増えてきている。 ●課題解決に向けて、じっくりと思考・判断したり、自分の考えをまとめ、分かりやすく表現したりすることには、二極化傾向が見られ、苦手な子が多い。	・目的意識を持って話を聞き、友達の意見につなげて、自分の意見を発表することができる。 ・学習したことについて、教師の説明や友達の考え、自らの学びをふまえて、まとめの文章を書くことができる。	・相手意識を持って話す、目的意識を持って聞くことができるよう、観点を明示したり司会のマニュアルを作成したりし、話し合いの組織化を図る。 ・考えの根拠となった言葉を探したり他者の考えを受けて自分の考えがどのように再構築されたのかの筋道を示したりさせる。	・学習ガイドを用いて、物語文や話し合い文の解き方を検討し、内容を的確に読み取る力を培う。 ・概念形成や対話的な学びが促進できるように、授業の中で、「なぜ」「どうして」とたずね合い、説明できる授業展開を図る。	・観点や話し方のマニュアルの提示により、相手意識や目的意識をもって自分の考えを話したり、他者の考えにつなげたりできるようになってきた。また、課題や論点を明確にすることにより、根拠を示しながら発言できつつある。 ・まとめや考えを書く活動は課題がある	・自力解決に至るまでの児童の発言を可視化した思考黒板の活用を図ったり、自力解決や小集団での話し合いを大切にしたりしながら、一人一人が自分なりに考えることができるよう授業改善に努める。 ・振り返り学習の充実を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題にはまじめに取り組むことができる割合が高まっている。 ●家庭学習における丁寧さや正確さ、読書の習慣化に課題がある。 苦手なことや分からない課題に対して、粘り強く取り組むことができにくい。	・自分でめあてを立て、主体的に学習や読書に取り組むことができる。 ・苦手な事や難しい課題に対しても、粘り強く丁寧に取り組むことができる。	・「家庭学習の手引き」「自主学習の進め方」をもとに、家庭学習の意義について家庭・児童の意識を高め、学習の目的意識を高め、学習や読書の習慣化の確立を図る。 ・外部図書館との連携や読み聞かせなど読書活動を工夫し、読書環境を整える。	・ゲーム時間と学力との相関関係について懇談や学年便りを用いて周知させ、基本的な生活習慣の見直しと一層の確立を図る。 ・タブレットを既習内容の復習等随時取り入れ、主体的に学習に取り組む姿勢を培う。	・家庭学習の提出率は高く、家庭学習に確実に取り組んでいる。また、分からないことや知りたいことについて、与えられた課題以上に取り組む児童も生まれている。低学年では、シール活用により課題への丁寧さが育ってきた。 ・市立図書館と連携し、授業内容と本を関連づけることで読書意欲が高まった。	・児童がより主体的に家庭学習に向かえるよう習熟度や学力差に応じた課題を、タブレットやプリントを用いて図る等、模索する。 ・本の紹介をテーマとする1分間スピーチや児童の興味関心の高い冒険本やシリーズ本等の読み聞かせを行い、読書啓発に努める。

令和4年度 学力向上ロードマップ

